

2025/09/●● ●●: ●●実施

レッドフラグ判定おねがいします レッドフラッグ項目 突然発症のしびれ(数分～数時間以内) → なし 朝ひげをそるときに右肩が痛い しびれもでる 急速に進行する筋力低下を伴うしびれ(数時間～数日) → なし 呼吸困難を伴うしびれ → なし 馬尾症候群の徴候(サドル麻痺、尿閉／失禁、便失禁、括約筋障害) 特定の髄節以下での視野性しびれ → なし 顔面＋体幹で同時に起こるしびれ → なし 対称的に進行する「手袋靴下型」のしびれ＋運動障害 → なし 基礎疾患・既往ありの

新規しびれ →なし 入力項目 年齢・性別 7●歳 男性 しびれの部位・分布

右肩から右腕にかけての強い痛みとしびれあり 発症速度(突然／亜急性／慢性)
 亜急性 2か月前バイクから降りた時に痛くなった 随伴症状(筋力低下・排尿障害・
 呼吸困難など) なし これまでの歴史(がん、糖尿病、免疫抑制、感染リスクなど)

●年前に●の手術 ●●● 持病はナシ ただ●●●●●●●●●●ある 現在整形外科通院中 整形外科の医師の指示で鍼灸院に来所したが引き続き医師の経過観察が必要と思われる ●●●●● ●●●●●あり

ChatGPT:

✓ レッドフラグ判定結果をまとめました。入力いただいた情報を項目ごとに整理します。

レッドフラグ評価

- 突然発症のしびれ(数分～数時間以内)
 - なし(経過は亜急性、2 か月前のバイク動作後より)
- 急速に進行する筋力低下を伴うしびれ(数時間～数日)
 - なし
- 呼吸困難を伴うしびれ
 - なし
- 馬尾症候群の徴候(サドル麻痺、尿閉／便失禁、括約筋障害)
 - なし

- 特定の髄節以下での視野性しびれ
→ なし
 - 顔面＋体幹で同時に起こるしびれ
→ なし
 - 対称的に進行する「手袋靴下型」のしびれ＋運動障害
→ なし
 - 基礎疾患・既往ありの新規しびれ
→ ●手術歴はあるが、がん・免疫抑制・糖尿病なし → レッドフラグ該当なし
-

入力データまとめ

- 患者: 7●歳男性
 - 症状: 右肩～右腕の強い痛みとしびれ
 - 経過: 亜急性(2 か月前から)
 - 随伴症状: なし(筋力低下・排尿障害・呼吸困難なし)
 - 既往: ●の手術歴(●●●)、がん・糖尿病・免疫抑制なし
 - 生活背景: ●●●●●●●●●●●●●●●●
 - 現状: 整形外科通院中、医師の指示で鍼灸院に来所
-

判定

- 現時点ではレッドフラグ所見なし
- 経過や分布からは 頸椎症性神経根症などの整形外科的疾患の可能性が高い と考えられます。
- ただし 7●歳という高齢で、右肩～右腕の痛みが強く持続しているため、整形外科での経過観察・画像評価の継続が必須。

推奨アクション

- 引き続き整形外科での診療継続（MRI や神経学的評価が適応の可能性あり）
- 鍼灸治療はあくまで補助的に行い、**新規の筋力低下・排尿障害・サドル麻痺**などが出現した場合は直ちに医師へ再受診を指導
- 背景として高齢・既往歴あり → 安全性確保のため経過観察を強調

📖 判定としては「現時点でのレッドフラグ該当なし。ただし整形外科での経過観察が必須」です。

ご希望あれば、この結果を MD 方式チェックリスト形式（コード出力）にも整形しますか？

あなた:

右肩の可動域制限はなく、熱もないです ●●●●●●●●●●いるため肩や首に負担がかかっていると思われます。たしかに緊急性のサインはないものの生活状況からも医師の定期的な関与は必要だと感じました ●●●を起こしたときも医師から「あと少し遅かったらあなたは死んでいた可能性がある」とくぎを刺されたようです

ChatGPT:

ありがとうございます。追加情報を踏まえて整理しました。

レッドフラグ最終判定（更新）

- 緊急性のレッドフラグ症状（突然発症、急速進行の麻痺、馬尾症候群、呼吸困難など） → なし

- ・ 局所所見:右肩可動域制限なし、発熱なし → 感染や急性炎症の可能性低い
 - ・ ●●●による負担:肩・頸部への慢性的ストレス因子として妥当
 - ・ 生活背景・既往:
 - 過去に●●●で命に関わる経験あり → 本人の健康リスク認識を高める要因
 - ●●●●●●●→ 医療アクセスやセルフマネジメントの困難がある
 - 整形外科に継続通院中 → 医師の定期的な関与はすでに担保されているが、引き続き重要
-

評価まとめ

- ・ 現状のしびれ・痛みは整形外科的病態(頸椎症性神経根症など)の範囲内であり、レッドフラグには該当しない。
 - ・ ただし、年齢・生活環境・既往(●●●で重篤化した経験)を考慮すると、安全確保のために定期的な医師の診察継続は必須。
 - ・ 鍼灸での介入は補助的に行い、「新たな筋力低下」「排尿障害」「サドル麻痺」「発熱」などが出た場合は即時再受診を指導する。
-

実務的コメント

- ・ 鍼灸師としての立場:
 - 緊急性の所見がないことを確認
 - 医師の診療と併用で安全性を担保
 - 治療中に症状変化があればすぐに医師へ連絡
- ・ 患者さんへの説明ポイント:

- 。「今のところ緊急性はありませんが、定期的にお医者さんに診てもらいながら進めましょう」
- 。「もし急に力が入らなくなる、尿や便が出にくい、発熱が出るなどしたらすぐに病院に行ってください」

📖 ご希望なら、今回のケースを「しびれレッドフラグ一次チェックリスト(MD 方式)」形式 に最終まとめして、臨床記録や患者説明に使える形にコード化しますか？

あなた:

いや、定期的に整形外科に通院し、医師の診察も受けるよう指導しました 鍼灸院だけで見ていくのはリスクがあると判断しました

ChatGPT:

とても適切な判断だと思います。いただいた情報をふまえ、臨床記録や患者説明用にまとめると以下ようになります。

レッドフラグ最終判定

- 急性・緊急性のレッドフラグ所見: なし
- 局所所見: 右肩可動域制限なし、発熱なし
- 背景: ●●●●●による負担、●●●●●●●●●●など生活上の制約、既往に●●●●
(重篤経験)あり

臨床判断

- 現在の症状は 緊急性を示すレッドフラグには該当せず。
- ただし高齢、既往歴、生活状況を考慮すると、鍼灸院単独での経過観察はリスクが高い。

- 定期的な整形外科受診と医師の診察を継続するよう指導。
 - 鍼灸施術は補助的に行い、症状悪化時は速やかに医師へ連絡・受診を勧める。
-

患者さんへの説明(例)

- 「いまのところ緊急に病院に行く必要はありません」
- 「ただし、年齢やこれまでのご病気のことを考えると、お医者さんの診察を定期的に受けながら鍼灸を続けていくのが安全です」
- 「もし急に力が入らなくなる、排尿・排便の異常、発熱などが出たらすぐに病院に行ってください」